

未来の街最優秀賞

作品を見た瞬間に「何が描かれているのか」がひと目で理解できて、すんなりと作品の世界に入っていきれました。力強く立ち上がる高い高いビルの中に、いろんな生命が生きています。このビルは、太陽系の真ん中にそびえる命と希望のシンボルタワーなのです。きっと何度も構図や色合いを考えたであろう熱意が、ていねいな画面作りから伝わってきます。



コメント
マンガ家
里中 満智子

くじらのスペースコロニー
瀬尾 うえら さん(6年生)

未就学児部門 最優秀賞

実に力強い作品です。細かいところに色々工夫がしてあり、空飛ぶ魚型の乗り物や、飛び石のように島が川を横切っているのも面白い発想です。考えたモノをしっかり描いて、細かいところまできちんと色を塗って、途中で投げ出さずやり抜く努力が伝わってきました。



コメント
マンガ家
里中 満智子



緑が多くて、みんなが楽しい街
木村 航 さん(5才)



みんなが考える地球にやさしい未来の街って?

主催 大阪広域生コンクリート協同組合 産経新聞社

未来の街を描こう!! 絵画コンクールとは...

わたしたちの街はさまざまな人々の「夢」「創造」「想い」を経て発展を遂げました。街のさらなる発展を願い、これからの時代を担う子どもたちが未来の街を「夢」「創造」「想い」など自由な発想で考え発表の機会を創出するために大阪広域生コンクリート協同組合、産経新聞社の共催で行う絵画コンクールです。今回の応募総数は、4,695点。9月28日(木)に審査会が行われ、厳正な審査の結果各賞を決定しました。11月25日(土)フリーゼプラザ小ホールにて表彰式が行われました。受賞作品28点は、表彰式当日から12月3日(日)まで、フリーゼプラザ6階に展示されています。

応募総数 4,695点

ご応募
ありがとうございました



審査員特別賞



運命
森下 遙乃 さん(6年生)



自然豊かな water world
糸田川 沙也 さん(5年生)



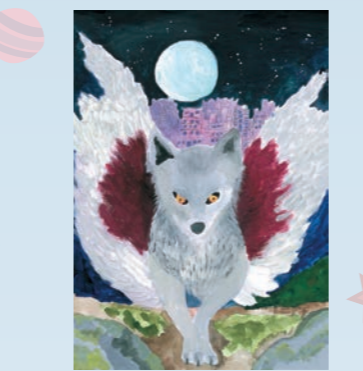
クマノミの街
仲谷 咲姫 さん(4年生)



日本の明るい未来の街をのぞこう
西村 心恋 さん(3年生)



ユニコーンのいる未来の町
堀上 みちる さん(2年生)



おおかみと月のまち
八嶋 柊 さん(2年生)

Golden Palette賞

ゴールデンパレット



涼しいかき氷のおうち
小原 千佳 さん(6年生)



世界樹とともに暮らす街
永井 秀弥 さん(5年生)



海底の都市
石田 義亜 さん(4年生)



未来駅からのまわりの様子
西村 悠良 さん(4年生)



緑いっぱいのハッピータウン
永藪 花帆 さん(2年生)



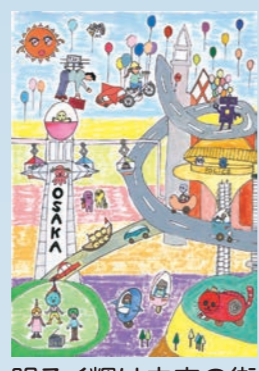
うみのなかまどくらしたいな
叶 羽桐 さん(1年生)

大阪府知事賞



みんなのやさしさで1つにつながった大阪!
村上 莉望 さん(4年生)

大阪市長賞



明るく輝け未来の街
日下 心咲 さん(6年生)



みんな なかよし みどりいっぱい 大阪
中山 愛結 さん(2年生)



ジンベエザメのマリンシティ
三好 蒼真 さん(4年生)

審査員 講評



マンガ家 里中 満智子

素晴らしい作品が多くて、一つ一つ見ながら「よくこんなこと思いついたなあ」とか、「こんなに細かいところまで気配りしてあってすごい」と、感心してばかりでした。明るい未来ばかりではなく「人間のせいで地球は汚れてしまい、未来は絶望的だ」というテーマの作品もかなり見受けられ、そこに「このままじゃいけないのだ」という強い心を感じました。その気持ちと「こうあってほしいという希望、意欲」が一緒に手を取り合って真の未来をつくるのです。未来を作る皆さんの意欲に期待します。



キッズゲルニカ関西 代表 阿部 寿文

今年も力作揃いでした。中でも審査員それぞれが様に足を止めた最優秀賞やゴールデン・シルバーの各賞作品は夢いっぱい。宇宙に伸びるビルの上に鯨が乗っかっていたり、かき氷の家、海の中でイルカに抱かれた子供、木々や動物そして自然との共生など大人では描けない世界です。そしてあなたが十分に時間をかけて丁寧に夢を紡いでいるのがわかります。中には地球温暖化に対する警告のような絵もありました。じつとこらを見る羽根の生えた狼の目。審査員みんなの目がそこを止まりました。それぞれの世界を表現するあなたたちの背後には、たくさんの影響を与えられた周りの世界があることがよくわかります。心は自由に、そして異なる考え方の人たちの心も想像していく力はあなたたちの中に確実に育っています。今あなたたちは良い環境にいる。そして自由な心で未来を作っていく。そんなあなたたちをみて幸せに思うのは、種をまく立場にいる大人たちです。毎年のことですが心から感謝しています。



大阪広域生コンクリート協同組合 理事長 木村 貴洋

今回受賞されました幼稚園・小学生の皆さん、誠におめでとうございます。今年の絵画コンクールのテーマは「みんなが考える地球にやさしい未来の街って?」とさせていただきます。今年は、新型コロナウイルスの影響もほぼなくなり、特に制限がない形でのコンクールの開催を決定いたしました。応募点数は昨年より500点ほど減って、4695点となりましたが、内容的には年々向上してきていると感じております。今年のテーマは、「みんなが考える地球にやさしい未来の街って?」とした関係で、地球の環境問題に関する作品が多いのが今年の特徴となりました。また、作成に時間をたっぷりかけたと思われる緻密な作品も数多く見受けられました。このコンクールは、今年で第17回目の開催となりますが、今後も社会貢献活動の一環として、児童絵画コンクールを継続してまいりたいと考えておりますので、楽しみにしておいてください。



産経新聞 大阪本社 編集委員 荻原 靖史

やはり出会いのインパクトだだと思います。毎年、何枚も並んだ力作を前にするとき、「おーい、見て見て」と強いアピールを感じる作品があります。岡田監督ではありませんが不思議な「アレ」を感じてしまうのです。まずは「アレ!」です。着想も色合いも描き込みも、びっくりマークの「アレ!」ですね。それにもうひとつ、「アレ!」もあります。しっかり描き込まれながら意図を図りかねる作品で、そんなときは絵をひっくり返して表題を見ます。大抵はそうだったのかとなるわけですが、最後まで謎に包まれた作品もあって、私たち審査員は悩みに悩み、最後は「えいっ!」で決めます。優れた選手も作品も予想を裏切る何かを持っていると思います。皆さんの描いた「躍る未来」はそんな魅力が詰まっていたと思います。